

Lesson 1 ▶ 時刻を取り出す

使用ブック

日付関数

Point

▶現在の時刻を取得する関数

現在の時刻のみを取り出す関数はありません。そこで、現在の日付と時刻を同時に表示する NOW 関数から日付のシリアル値を引きます。

<作成例>

=NOW()-TODAY()

▶時刻を取り出す

- 現在の時刻を取り出します。

使用する関数	
=NOW()	現在の時刻を求めます

- ① 「E1」へ現在の時刻を表示します。

▶時間計算をする

- 勤務時間を計算します。
- ① 「F7」から「F21」へ「退社時間」-「出勤時間」で勤務時間を計算します。
  - ② IF 関数を利用し、勤務がない日は勤務時間は空欄にします。
  - ③ 「F22」に勤務時間の合計を表示します。

	A	B	C	D	E	F
1					16:55	
2	出勤簿					
3			2016 年			
4			3 月分			
5						
6	日付	曜日	休日	出勤時間	退社時間	勤務時間
7	2016/3/1	火	休日			
8	2016/3/2	水		8:15	17:00	0.36458
9	2016/3/3	木		8:30	18:20	0.40972
10	2016/3/4	金		9:15	19:25	0.42361
11	2016/3/5	土		9:00	17:30	0.35417
12	2016/3/6	日		9:10	18:25	0.38542
13	2016/3/7	月	休日			
14	2016/3/8	火	休日			
15	2016/3/9	水	臨時			
16	2016/3/10	木		8:40	19:55	0.46875
17	2016/3/11	金		8:50	18:20	0.39583
18	2016/3/12	土	臨時			
19	2016/3/13	日		8:20	19:40	0.47222
20	2016/3/14	月	休日			
21	2016/3/15	火	休日			
22					合計	3.27431
23						

- 表示形式を変更します。
- ① 「F7」から「F21」の表示形式を「00:00」形式に変更します。

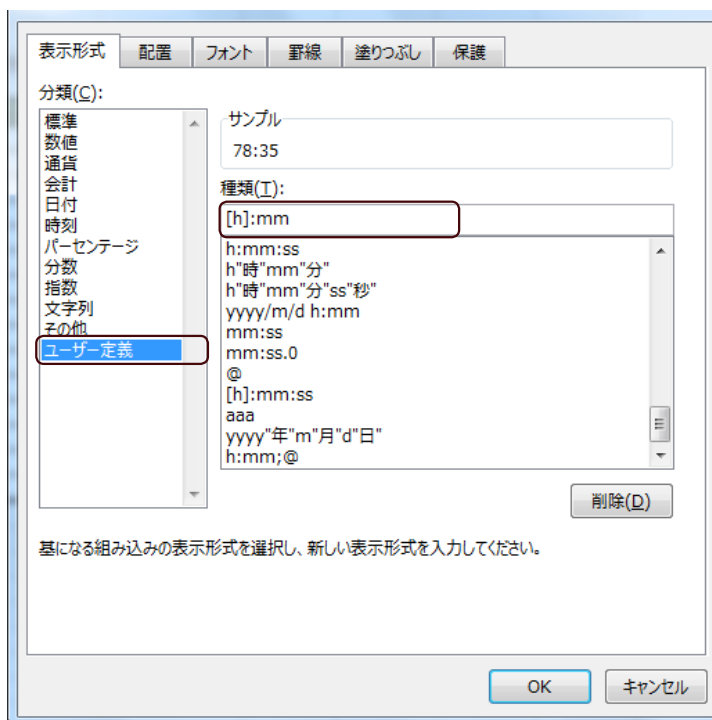
Point

▷ユーザー定義の書式設定

「00:00」形式は、12 時間表示のため正確な合計時間が表示されません。そこで[セルの書式設定]ダイアログボックスの「ユーザー定義」で書式を作成します。

ユーザー定義の一覧に「[h]:mm」があれば選択して利用します。ない場合は「種類」のテキストボックスに入力して作成します。

- ② 「F22」の表示形式を 24 時間以上の表示ができる「[h]:mm」に変更します。



	A	B	C	D	E	F
5						
6	日付	曜日	休日	出勤時間	退社時間	勤務時間
7	2016/3/1	火	休日			
8	2016/3/2	水		8:15	17:00	8:45
9	2016/3/3	木		8:30	18:20	9:50
10	2016/3/4	金		9:15	19:25	10:10
11	2016/3/5	土		9:00	17:30	8:30
12	2016/3/6	日		9:10	18:25	9:15
13	2016/3/7	月	休日			
14	2016/3/8	火	休日			
15	2016/3/9	水	臨時			
16	2016/3/10	木		8:40	19:55	11:15
17	2016/3/11	金		8:50	18:20	9:30
18	2016/3/12	土	臨時			
19	2016/3/13	日		8:20	19:40	11:20
20	2016/3/14	月	休日			
21	2016/3/15	火	休日			
22					合計	78:35

- 時間の補正をします。

使用する関数 1	
=MROUND (数値, 倍数)	数値を指定した値の倍数で四捨五入します
使用する関数 2	
=TIME (時, 分, 秒)	時刻のシリアル値を求めます

Point

「G6」には「補正」と入力し、罫線を追加して表のレイアウトを整えます。

- ① 「G 列」に 30 分未満は切り捨て、30 分以上は切り上げをして、給与支払い対象となる勤務時間を算出します。また、エラーが表示されないようにしましょう。